

## ガーナ共和国の観光資源

平成21年5月  
在ガーナ日本国大使館

### ガーナ共和国の紹介

ガーナ共和国は、1957年にサハラ以南のアフリカでは初めて英国からの独立を達成しました。1990年代以降は民主的な選挙が平和のうちに行われ、アフリカ大陸における民主主義の模範国の一つとして評価されています。

ガーナは、かつて金の産出で富み栄えたアシャンティ王国の統治下にありました。16世紀後半から19世紀初頭までの間は、ヨーロッパ人がギニア湾海岸に建設した城塞を拠点とし、現地人を奴隷としてアメリカ大陸に輸出する貿易に従事しました。

良質なカカオ豆の世界的な産地として名高いガーナですが、ほかにも、アシャンティ族とエヴェ族の伝統的な織物であるケンテは、その独特の美しい文様により賞賛されています。またガーナ人は親しみやすく穏やかな国民性で知られています。

### ヴォルタ州、グレーターアクラ州、セントラル州、ウェスタン州の城塞群(世界遺産)

15世紀以降、ギニア湾海岸にヨーロッパ人が建設した城塞の多くがユネスコの世界遺産に指定されており、なかでも、ケープコースト城及びエルミナ城が奴隷貿易の遺産として有名です。奴隷が出発する前に収容されていた部屋などに入り、当時の様子を偲ぶことができます。



世界遺産ケープコースト城  
(ケープコースト市)よりギ  
ニア湾を臨む。写真中央の  
暗闇の奥より、かつて奴隷  
達を乗せた船がアメリカ大  
陸に向けて出港しました。

### アシャンティの伝統的建築群(世界遺産)

アシャンティ王国は18世紀に隆盛を極め、現在のトーゴやコートジボワールに及ぶ地域を支配していましたが、19世紀に大英帝国との4度の戦争を経てイギリス領となりました。ガーナ第2の都市クマシ市の近郊にアシャンティ文明の遺構があります。



エジス(クマシ市近郊)の世界遺産ピシアセ神殿。藁・土を用いて建てられ、壁面には、象徴的な文様が施されています。

### 野口英世博士縁の研究室と記念公園

野口英世博士は、1927年から、翌年黄熱病により他界するまで、ガーナで黄熱病の研究に専心しました。野口博士の使用していた研究室がアクラ市内にあり、予約により訪れることができます。研究室の隣は野口博士記念公園となっています。

[ガーナ観光省のウェブサイト](http://www.touringghana.com)(www.touringghana.com)

[渡航情報](#)